

一途一心

三校一斉清掃の意義

～地域を担い、地域に愛される学校～

「おまえはおまえの全部が見えるか。心はどうじゃ。
見えるところだけ見ている人間は、だらしない人間で
人に好かれることもない。
見えないところを、いつも見ている人間は、しっかりもの
で人に頼りにされる。」

(灰谷健次郎著:天の瞳より)

P T A 総会の後、お二人の保護者とこんなやり取りがあった。

「先生、主任ならもっと上からガツンとやらなきゃだめだよ。」

「もっと熱い先生になってくれよ。」

私は自分の甘さを恥じるとともに、その通りだと、終始聞いていた。

そんなやり取りを聞いていた別の保護者が、

「いや、この先生は毎朝、街道のゴミ拾いをしてるんだぞ。」

私は嬉しかった。ちゃんと見てくれてる人がいてくれたことに。

だが、次の言葉で私はさらに感銘を受けた。

「先生、いろいろ言っただけで本当に申し訳なかった。実を言うと隣のAさんは、俺の先輩で、御柱のときに最後尾でゴミを拾うんだ。後輩の若い連中には尊敬されたければAさんの背中を見て学んで言ってるんだよ。」

「俺たち、三校清掃のときは仕事休んでも行くからな。」

たぶんあの時、私は泣いていたと思う…

そして、お二人の先輩が、ものすごくかっこよく見えた。

三校一斉清掃の意義は何か？

いろいろあるかもしれないが、私の個人的な考えはこうである。

「地域を担う若者が、諏訪圏人の熱い心意気を学び、そして伝承する」

君たちが登校・下校した後、道がゴミで汚れる意味が分からない。

御柱街道はただの県道ではないはず。

御柱を誇りに思う人たちの熱い思いを感じながら、三年生は清掃に取り組んでほしい。

